

センターだより

第85号

発行
平成28年9月



納涼盆踊り大会

目次

● ご挨拶	2
● 第11回大分県障がい者スポーツ大会	3
● 第51回蛍の交歓会	4
● 第21回所内スポーツ大会	4
● 市民講座開催	5
● 小学生に対する福祉体験学習	6
● 納涼盆踊り大会	6
● 終了者の近況	7
● 終了者の状況、職員異動、利用者募集のご案内	8

指定障害者支援施設

国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局
別府重度障害者センター

残暑お見舞い申し上げます。

所長 石渡 博幸

今年度も上半期が過ぎましたが、4月に熊本地震が発生し、尊い人命が失われるとともに、多くの方々が長期間に渡る避難生活を余儀なくされました。また、7月には、障害者施設において、多くの障害者の方々の尊い命が奪われるという、大変残忍かつ、許しがたい事件もありました。これらの災害や事件でお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、震災で被災されました皆様に心からお見舞い申し上げます。

地震では、センターもガラスの破損や建物にヒビが入ったり、石垣が崩れるなどの被害がありましたが、お陰様で利用者の皆さん、職員とも人的被害はありませんでした。

また、センター終了者を中心とした7名の地域にお住まいになっておられる障害者の方々の避難受け入れもさせていただきました。

二週間以上にわたり、毎日頻回に大きな余震が続き、利用者の皆さんも大変不安な日々を過ごされましたが、皆さん落ち着いて行動され、互いに気遣いながら訓練、生活を送っていただきました。職員も利用者の皆さんの安全確保を第一に考え、余震が落ち着くまでの一ヶ月弱の間、施設職員として適切な行動をとり、手前味噌で恐縮ですが、大変よく頑張ってくれたと感謝しています。

事件、事故、災害はいつ起きるかわかりません。平穏な日々においても、常にリスク管理について、できる限りの取り組みを行っていく必要性を改めて実感した次第です。

さて、国立施設での動きでは、この7月に、別府センターと同様に頸髄損傷者の方々の機能訓練を行ってきた、伊東重度障害者センターが、埼玉県所沢市にある国立障害者リハビリテーションセンターに統合されました。今後は、頸髄損傷者の方々の地域移行に向けた支援を行う国立機関は二カ所となり、別府センターの特色やよい点を継承・発展させつつ、所沢のセンターとも今まで以上に連携を取りながら、国立施設全体のサービスの質の向上を図って行かなくてはなりません。

引き続き、関係者の皆様のお力添えをいただきたく、お願い申し上げます。

第11回 大分県障がい者スポーツ大会

運動療法士長 木畑 聡

さわやかな季節も終わりに近づき梅雨が始まる頃、恒例の大分県障がい者スポーツ大会が開催されます。このような時期ですから、大会当日の天候も気持ちのよい日もあれば蒸し暑い日もあるなど年によって様子は大きく変わります。

今年は5月29日(日)に第11回大分県障がい者スポーツ大会(陸上競技)が開催されました。当日は雨が振ったり止んだりする生憎の天気でしたが、会場は全天候型の大分銀行ドーム(大分市)、雨に濡れる心配はありません。

今年は近年では最多となる12名の利用者が、1ヶ月前からセレクトティブワークの時間を使って練習に取り組み、大会参加に向けて準備をしてきました。50m走、100m走、200m走、ビーンバック投げ、スラローム、ソフトボール投げ等の競技があり、希望に応じてひとり2種目まで参加できます。今年から、一般の陸上競技と同様にスタートの合図はイングリッシュコールとなり(位置について→on your mark 用意→set)、皆さん少し慣れない様子でしたが、競技会独特の緊張感の中、自己ベスト記録・メダル獲得・ボランティアの高校生とのコミュニケーション…など 目標はそれぞれに、充実した1日を過ごすことができましたようです。

金メダルは13個 銀メダルは5個 銅メダルは2個と全員メダルを獲得し、大会記録も3つ出るなど好成績を収めることができました。

また、遡ること5月21日(土)には、別府市実相寺アーチェリー場にて、草野さんがアーチェリー競技に参加し、コンパウンドの部30mダブルラウンドで近年では高得点となる442点を出して金メダルを獲得しました。合わせて報告します。

来年も多くの利用者の参加をお待ちしています。



第51回蛍の交歓会

昨年50周年を迎えた竹田市立南部小学校との
蛍の交歓会。

6月9日、小雨の降る中、去年は5年生で来所
した児童28名が今年は6年生になって、400匹
の蛍と共に当センターに再来訪いただきました。

毎年恒例の行事ですが、1年の間に利用者の
半数以上が入れ替わるため、初めて行事に参加し
た利用者も多く、中には子供たちの合唱に感動して涙する姿も見られました。

夜は蛍を蚊帳の中に放って、利用者と職員とで観賞会を行いました。既にベッドに上
がっていた利用者は職員が各居室に蛍籠を持参し居
室で観賞しました。年々蛍が減少する中、南部小学校
では、環境保護団体と共に蛍の保護、育成にも取り組
んできておられます。センターとしても昨年度から観
賞した蛍を翌日竹田市の元の場所にお返しするよう
にしています。新しい半世紀に向けて、環境保護と両立
しながら南部小学校とのこの心温まる交流が末永く
続くことを祈っています。11月10日には、利用者代表
が南部小学校を答礼訪問し交流を行う予定です。



第21回 所内スポーツ大会

7/7 (木) に所内スポーツ大会を開催しました。「てげえ (一生懸命)、がんばることを誓い
ます!」と、赤レンジャーとうさぎに仮装した紅組キャプテン菊池さんと白組キャプテン尾碕
さんによるユニークたっぷりの選手宣誓で幕を開けました。利用者・職員混合で紅白に分
かれ、7種目 (じゃんけんサッカー、ボッチャ、ボールリレー、パン食い競争、ねらってピン
ボール、ゴロサッカー、対抗リレー) の競技を行いました。パン食い競争では隣の青山保育
園から10人の園児のみなさんにも参加していただき、可愛らしく賑やかな応援で場を和
ませてくれました。勝敗の行方については、序盤、紅組優勢でしたが、中盤から白組が猛
追、最終種目の対抗リレーで何とか逃げ切った紅組が優勝トロフィーを手にしました。接戦で
盛り上がり、よい交流の機会にもなって、和やかな雰囲気の中、大会の幕を閉じました。



市民講座開催

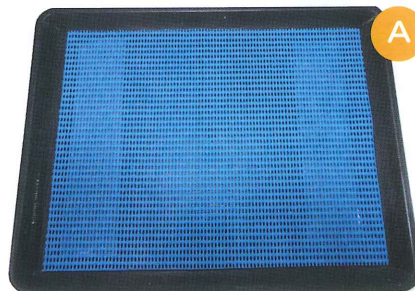
看護・介護部門

6月16日(木) 14:00~15:00、研修室にて「使ってみよう!福祉用具!~家にある物で介護をもっと楽にする方法~」と題して看護・介護部門で市民講座(地域の方々を対象として講習会)を開催しました。今回も南莊園町の自治会をお願いにあがり、6月の市報を配布する際にパンフレットと一緒に配布していただきました。近所の方、NPO法人の方6名が参加されました。脳梗塞を発症し右半身に障害が残ってしまった父とその家族のデイサービスに行く日の朝の模様を寸劇にしてわかりやすく説明を行いました。参加者の方からも笑いが起こったり、質問があったり和やかな雰囲気の中講座を行うことが出来ました。また、寸劇の中で使用した福祉用具は100円均一のお店で購入した物を使用し、紹介をさせていただきました。その他にも施設で使用している床走行式リフトや車いすのクッション、トイレチェアなど普段目にする事の少ない福祉機器の紹介もさせていただきました。参加してくださった皆様、ありがとうございました。



車いすのクッションとトイレチェア

市民講座内で紹介した福祉用具



『滑り止めシート』です。身体を上に出るときに足の下に敷いて足のズレを防ぎ、背中にビニール袋を入れる事で力を入れずに動かすことができます。

また、食事トレイの上に両面テープでシートを貼って、食器が動かないようにしたり(A)、スプーンの柄に同シートを巻いて太くする(B) ことで持ちやすくなり、片麻痺の方でも食事がしやすくなります。



『食事用クリップ(上)と帽子用クリップ(下)』です。

タオルにクリップを付けることでエプロン代わりになるので、外出時も手軽に持ち運ぶことができます。

『ストローコップ』です。

お茶やお水を入れて食事の時に使用したり液体歯磨きや洗口液を入れて歯磨き時に使用すれば片麻痺の方でも介助なしで行う事ができます。

小学生に対する福祉体験学習

当センターでは、地域活動の一貫として福祉体験学習を行っており、7月5日に南立石小学校を訪問しました。

体育館では、車椅子介助体験、車椅子操作体験を行いました。介助体験では段差昇降を介助する側、される側の両方を体験し、それぞれがどのような気持ちを持つか、ということを考えながら学習してもらいました。また、操作体験では、初めは恐る恐る車椅子を漕いでいた児童が、慣れてくるとスピードを出し、軽快にターンを行う姿も見られました。

図書室では、手指や下肢が動かない想定で、書字具を使用した書字体験と、ソックスエイドを使用した靴下の更衣体験を行いました。自助具を使うことにより失われた機能を補うことができることや、可能な限り自分のことは自分で行うことの重要性を学習してもらいました。

体験学習終了後には、「自分で段差を越える時はどうするのですか?」「どのような原因で車いすになる人が多いのですか?」など、児童のみなさんから活発に質問が出され、障害者や車椅子についての理解を広められたのではないかと感じました。今後も、今回のような福祉体験学習を継続していきたいと思います。



納涼盆踊り大会

南荘園自治会との共催で開催される毎年恒例の納涼盆踊り大会を7月28日(木)に当センター屋外運動場にて開催しました。

毎回心配される夕立ですが、今年は天候にも恵まれての開催となりました。

威勢のいい古戦場太鼓が響きわたる中、別府民踊会・南荘園町婦人部による優雅で華やいだ踊りの中に引き込まれるように、地域の方々、利用者、職員も積極的に踊りの輪に入り、「別府音頭」「温泉踊り」「やっちき」を楽しみました。

会場内では地域の子どもさんたちがスーパーボールすくいに興じる姿も見受けられました。

地域の方々と当センター利用者とのふれあいを目的としているこの納涼盆踊り大会を今年も無事終わることができました。

ご協力いただいた古戦場太鼓・別府民踊会・地域の皆様ありがとうございました。

暑い中、少しばかりの涼を感じた1日となりました。

終了者の近況

平成24年4月終了 I. Kさん

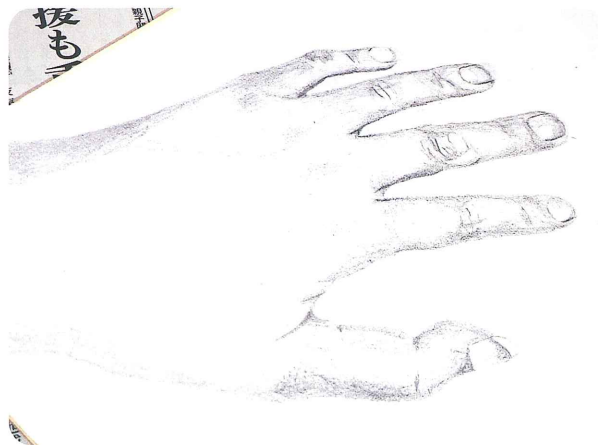
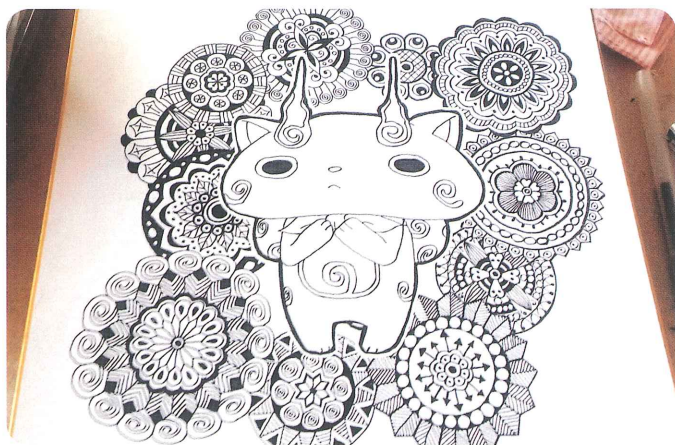
2012年4月に重センを退所して、4年3か月が経ちました。当初は自宅に戻って本当に生活していけるのか、また就職できるのかと毎日のように不安に感じていましたが、その年の9月にハローワークからの紹介で地元の会社から嘱託職員という形で採用してもらいました。そして、2016年4月より正規職員として採用して頂くようになりました。

年齢と身体状況を考えたら、正規職員での雇用どころか就職すらできないのではないかと考えていたので、感謝しております。さらに職員の方々には心使いをしていただき、非常に助かっています。

また、生活面においては、ほぼ毎週、週末には子供の部活の応援に出かけたり、家族とショッピングや外食をしたりなど以前に近い状況になってきたのではないかと思います。これから先の事を考えると不安なことも多々ありますが、現時点ではとても充実した毎日を送っています。

平成26年4月終了 小竹 祐夏さん

私は受傷して5年間、自宅で寝たきりの生活を送ったのちに入所しました。人と関わるのが苦手でしたが、センターでは様々な人に出会い、リハビリに励みました。退所する頃には、少し寂しくなりながら笑顔で自宅へ帰ったのを覚えています。学生時分に怪我をしたので、社会にでて働いた経験がなかった私ですが、帰省後チャンスに恵まれたので働くことになりました。排便コントロールができず、家からでることは難しいので、在宅勤務です。1日4時間、パソコンに向かってキーボードをつついていきます。余暇の時間には絵を描いたり、好きなアニメをみたり、自分の手でできる範囲の手芸を楽しんだりしています。また、ひとりでお出かけもするようになりました。晴れの日、自分のペースで家の周りをお散歩しています。出先では知らない人に助けてもらえる時もあり、そのたびに心から感謝します。外に出て行かないとわからなかった人の温かさに、たくさん気付けるようになりました。それもこれも、センターで過ごした時間のおかげだと思っています。



小竹さんが描いた絵

終了者の状況

(平成28年1月1日～平成28年6月30日)

復帰形態	家庭復帰	就職	自営・内職	現職復帰	就労支援施設・能開校	他施設	病院	進学	その他	計
人数	7	0	0	2	1	2	3	0	1	16
比率(%)	43.8	0	0	12.5	6.2	12.5	18.8	0	6.2	100.0

職員異動

平成28年3月31日付

- 定年退職 医務課看護師長 工藤 とし子
医務課副看護師長 小高 あけみ

平成28年4月1日付

- 採用 医務課看護師 松山 美紀
医務課看護師 松田 真実
- 転入 庶務課支援管理係長 長島 えみ史 (国立障害者リハビリテーションセンターより)
医務課介護員 峯野 雄一郎 (国立障害者リハビリテーションセンターより)
支援課生活支援専門職 水本 達也 (国立障害者リハビリテーションセンターより)
- 転出 庶務課庶務課長補佐 丸山 家太郎 (国立障害者リハビリテーションセンターへ)
庶務課支援管理係長 石毛 利宏 (国立障害者リハビリテーションセンターへ)
庶務課主査 秋田 治 (国立障害者リハビリテーションセンターへ)
支援課生活支援専門職 高橋 文孝 (国立障害者リハビリテーションセンターへ)
- 内部異動 医務課看護師長 徳永 ひろ子
医務課副看護師長 土師 信子

平成28年7月1日付

- 転入 庶務課庶務課長補佐 西川 浩一 (国立障害者リハビリテーションセンターより)
庶務課主査(併)庶務係長 寺上 省吾 (国立障害者リハビリテーションセンターより)
- 内部異動 庶務課会計係 白石 朱音 (庶務課庶務係より)

利用者募集のご案内

当センターは、厚生労働省が設置・運営する指定障害者支援施設です。主に頸髄損傷等による重度の肢体不自由の方で、市区町村から「障害福祉サービス受給者証」の交付を受けた方を対象に、社会復帰に向けた支援を行っています。

ご利用できるサービスは以下の通りです。

○自立訓練(機能訓練)

理学療法、作業療法、スポーツ訓練、職能訓練です。

利用期間については、利用開始後の評価に基づき作成した個別支援計画書に定めた期間となります。障害者総合支援法上の標準利用期間は1年6か月間です。(頸髄損傷による四肢の麻痺その他これに類する状態にある方は最大3年間です。)

○施設入所支援

自立訓練(機能訓練)を利用される方で、自宅から通所が困難な方のために、看護・介護等の支援を受けながら宿舎の利用が可能です。

詳細は、次のURLから当センターのホームページをご参照下さい。

<http://www.rehab.go.jp/beppu/>

なお、当センターの概要や利用申込み手続き、見学などのお問い合わせについては、下記までご相談ください。

お問合せ先

国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局

別府重度障害者センター 支援課

住所 〒874-0904 大分県別府市南荘園町2組
電話 0977-21-0182(利用相談)
FAX 0977-21-2794
E-mail soudan-beppu@rehab.go.jp